

令和7年度「全国学力・学習状況調査」結果についてのお知らせ

佐賀市立城西中学校

4月に文部科学省による学力・学習状況調査を実施しました。全国的な義務教育の機会均等と水準向上のため、生徒の学力や学習の状況を把握・分析し教育の改善を図るとともに、生徒一人一人の学習改善や学習意欲の向上につなげることを目的としているものです。

結果を基に、本校生徒の学力の傾向を分析し、学力向上について対応策をまとめました。その概要についてお知らせいたします。

■ 調査期日

令和7年4月16日(水)

■ 調査の対象学年

中学校3年生生徒

■ 調査の内容

(1) 教科に関する調査(国語、数学、理科)

- ①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等に関わる内容。
 - ②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容。
- 調査問題では、上記①と②を一体的に問うこととする。出題形式については、記述式の問題を一定の割合で導入する。

(2) 生活習慣や学習環境に関する質問紙調査

児童に対する調査	学校に対する調査
学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査 (例)国語への興味・関心、授業内容の理解度、読書時間、勉強時間の状況など	指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査 (例)授業の改善に関する取組、指導方法の工夫、学校運営に関する取組、家庭・地域との連携の状況など

■ 調査結果及び考察について

全国学力学習状況調査は小学6年生・中学3年生と限られた学年が対象です。今年度の実施教科は、国語と算数・数学、理科に限られています。さらに、出題は各教科の限られた分野(問題)です。したがって、この調査によって測定できるのは、「学力の特定の一部」であり「学校教育活動の一側面」であることをご理解の上、ご覧ください。

■ 調査結果及び考察

1 生活習慣や学習習慣に関する調査

(1) 結果

※「当てはまる」「どちらかと言えば当てはまる」「どちらかと言えば当てはまらない」「当てはまらない」のうち「当てはまる」「どちらかと言えば当てはまる」と肯定的に回答した生徒の割合。

佐賀市学校教育ビジョンに関連する調査項目	本校 %	全国平均 %
学校に行くのは楽しいと思う。	80.2%	78.7%
将来の夢や目標を持っている。	72.4%	67.5%
自分には、よいところがあると思う。	88.8%	86.2%
学級の友達との間で話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができている。	88.0%	84.7%

今年度は、上記すべての調査項目において、肯定的な回答をした生徒が全国平均を上回っています。

《家庭学習の様子》

調査の項目	本校%	全国平均 %
分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか。	27.6%	27.4%
学校の授業時間以外に、普段1日当たりどれくらいの時間勉強していますか（塾・家庭教師・インターネット活用の学習も含む）。 「3時間以上」	8.6%	9.9%
「2時間以上、3時間より少ない」	11.2%	20.9%
「1時間以上、2時間より少ない」	27.6%	30.8%
「30分以上、1時間より少ない」	15.5%	19.1%
「30分より少ない」	20.7%	11.3%
「全くしない」	16.4%	7.7%

家庭学習については、普段（月～金）及び休日の勉強時間は、全体的に全国平均を下回っており、課題が残りました。また、全く家庭学習をしていない生徒の割合も高いです。かなり個人差が見られるので、家庭学習の大切さを保護者や生徒に伝えて家庭学習が習慣化するように指導をしていきます。また、卒業後の進路選択を見据え、自分の目標に向かって、計画を立てて家庭学習を行う習慣の大切さについても指導していきます。

(2) 改善に向けての取り組み

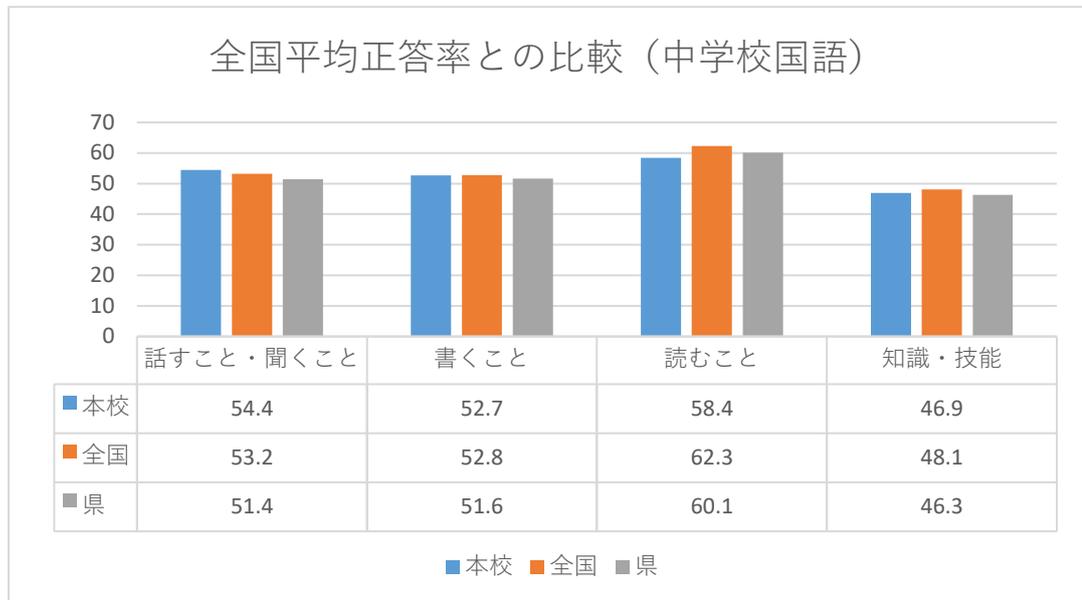
【学校では】

○学校では、日々の授業において、お互いの考えを出し合い、認め合いながら、考えを整理したり、広げたり、深めたりする場面を設定し、根底となる主体的に学習に取り組む態度を育成します。また、授業場面で自らの意見を述べる、観察・実験・調べ学習等を通じて自己の仮説を検証してレポートするなどの「自ら考え、選択し、決定する、あるいは発表する、制作する時間」を大切にします。

【ご家庭では】

- 学校便り・学年便り・授業プリント等をご覧になり、学校に関する会話をすることで、コミュニケーションを毎日とっていただきたいと思います。また、毎日決まった時間に家庭学習を行うように声かけをお願いします。
- SNS等の情報通信機器を使っている時間が長すぎる生徒も見られます。使い方については、ご家庭でしっかりお子様と話し合い、各家庭のルールを決めていただくようにお願いします。

2 国語



(1) 結果

「話すこと・聞くこと」の領域では、全国平均を、三つの領域において県平均を上回っています。また、無解答率については、全ての問題で全国平均と同等の結果となっています。

(2) 成果と課題

話すこと・聞くこと 全国平均を1.2ポイント上回っています。豊かな対話を位置づけた授業づくりを行い、話し合い活動や学び合い活動を実践する中で、目的に応じた応答を繰り返し行ってきたことが結果に結びついています。

書くこと 全国平均を0.1ポイント下回っています。昨年度と比較すると全国平均に近づくことができている。今後も、表現の効果を考えて描写する活動や伝えたい事柄を適切に書く活動を授業の中で多く設定していきます。

読むこと 全国平均を3.9ポイント下回りましたが、「文章の構成や展開について、根拠を明確にして考えることができるかどうかをみる問題」においては、全国平均を大きく上回っています。今後は、様々な種類の文章の読解に取り組み、図と文章や段落と段落の関係性に着目して内容を理解する力を身に付けさせていきます。

知識・技能 全国平均を1.2ポイント下回っています。「事象や行為を表す語彙について理解しているかどうかをみる問題」では、全国平均を上回りましたが、「文脈に即して漢字を正しく使うことができるかどうかをみる問題」は課題が残りました。文脈に即して漢字を正しく書くことや言葉を適切に使うことについては、意味や用法を理解しながら身につけさせるように指導していきます。

(3) 学力向上のための取り組み

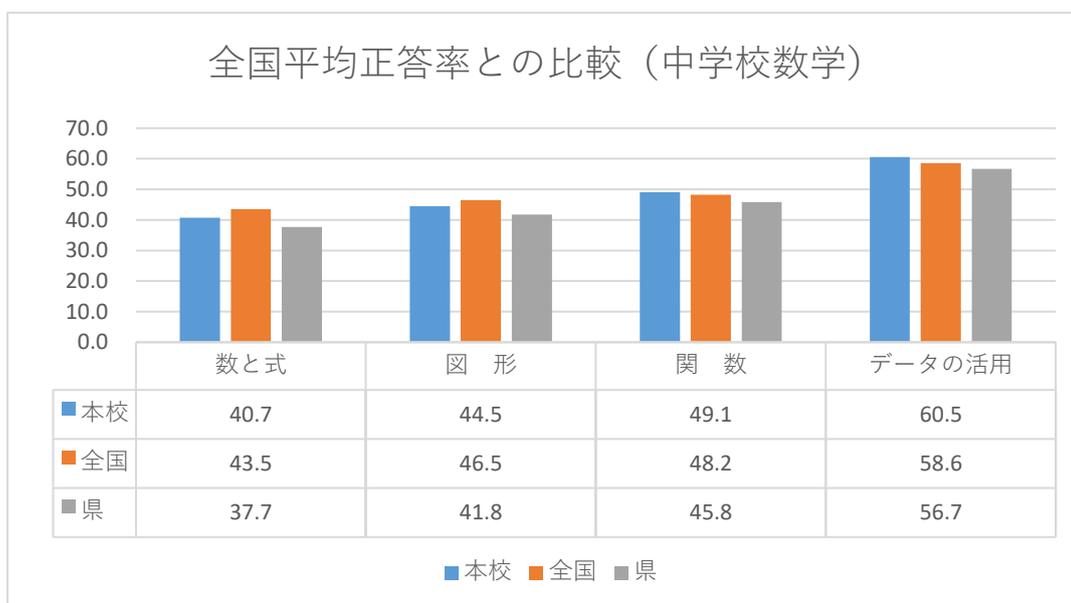
【学校では】

- 生徒が主体的に学べるように、豊かな対話を位置づけた授業を行い、生徒同士が話し合いながら、自分の考えを広げたり深めたりしながら学んでいけるようにします。
- 日々の授業で力を付けていけるように、すべての授業で「振り返り」の時間を設定します。
- 一人一台端末や辞書を活用させ、多くの文章に読み慣れさせ、多くの言葉に触れさせることで、語彙力を高め、学力向上につなげていきます。

【ご家庭では】

- 授業プリントやテストの答案など、間違ったところを復習することで、学力は大きく向上します。自学ノート等を活用し、その日の授業を振り返るようにすることで学力は定着します。その際、授業内容を尋ね、話題にさせていただくとより効果的な振り返りになります。
- 新聞や本、ニュース等から得た情報を共有し、話題にしてください。知らない言葉が出てきたときに、辞書や一人一台端末等を活用し、興味をもって調べる習慣が身につけば、語彙力が高まります。

3 数学



(1) 結果

「関数」、「データの活用」の2領域では、全国平均を、「数と式」、「図形」の2領域では、県平均を上回っています。

(2) 成果と課題

観点別にみると「知識・理解」及び「思考・判断・表現」ともに、県平均を上回っています。一次関数について増加量を求める問題や相対度数を求める問題の正答率は、全国平均を大幅に上回っています。ただ、領域ごとの各設問の正答率に目を向けると以下のような課題も残りました（以下は全国平均正答率と比較して特に低かった設問）。

数と式

「数量を文字を用いた式で表すことができるかどうかをみる問題」（-10.7ポイント）。

図形

「統合的・発展的に考え、条件を変えた場合について、証明を評価・改善することができるかどうかをみる問題」（-5.6ポイント）。

データの活用

「必ず起こる事柄の確率について理解しているかどうかをみる問題」（-7.2ポイント）。

また、無解答率が著しく高かったのが、関数の「事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明できるかどうかをみる問題」（41.2%）

(3) 学力向上のための取り組み

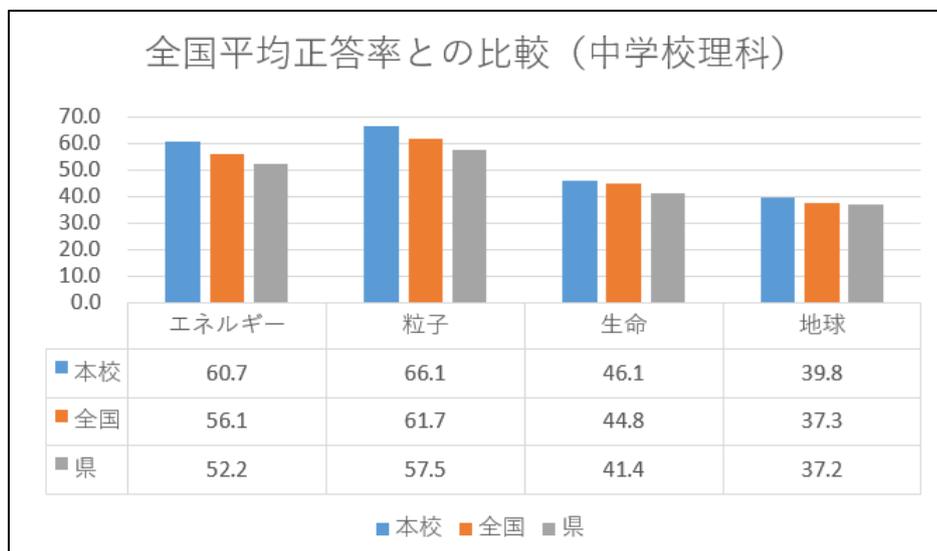
【学校では】

- お互いの考えを出し合い、認め合いながら、考えを整理したり、広げたり、深めたりする場面を設定し、少人数または学級全体における話し合う活動の充実を図ります。
- 单元ごとに、身につけたい力を提示し、見通しをもって学習に取り組むことができるようにします。また、振り返りを適切に行い学習内容の定着を図ります。
- 日々、個々のつまずきに応じた指導を行い、学力向上に努めます。

【ご家庭では】

- 学校で使用しているワーク（数学の問題ノート）やプリント等の宿題の取り組み状況やテストの結果をご覧になって、学習内容を家庭内での話題にし、家庭学習につなげてください。教科書を使いながら、毎日コツコツ復習していくことをお勧めします。
- 学習内容の理解を深めるために、同一問題や類似問題、さらには発展的な問題に取り組んでいくことも大切です。その際は、ワーク掲載のC問題～実力を試そう～をご活用ください。

4 理科



(1) 結果

学習指導要領記載の「エネルギー、粒子、生命、地球」のすべての領域において、県・全国平均正答率を上回っています。また、無解答率を見ても、全ての問題で全国平均よりも低くなっています。

(2) 成果と課題

エネルギー 全国平均を4.6ポイント上回っています。特に、「電熱線を利用して水を温めるための電気回路について、直列と並列とで回路全体の抵抗が大きい装置や速く水が温まる装置を選択する問題」は、全国と比較して正答率が高かった(+15.6ポイント)。

粒子 全国平均を4.4ポイント上回っています。特に、「理科の授業では、なぜ水道水ではなく精製水を使うのかな?という疑問を解決するための課題を記述する問題」は、全国と比較して正答率が高かった(+13.3ポイント)。

生命 全国平均を1.3ポイント上回っています。ただ、「水の中の生物を観察する場面において、呼吸を行う生物について問うことで、生命を維持する働きに関する知識が概念として身に付いているかどうかをみる問題」は、全国・県と比較して正答率が低く(-6.5ポイント)課題が残った。

地球 全国平均を1.3ポイント上回っています。ただ、「4種類の地層の性質から、水が染み出る場所を判断し、その場所を選択する問題」は、全国・県と比較して正答率が低く(-4.9ポイント)課題が残った。

(3) 学力向上のための取り組み

【学校では】

- 「事象提示、課題、予想、実験・観察、結果、考察、課題」の学習活動を基本とし、思考力、判断力、表現力を向上させます。
- 全員の生徒が主体的に学べるように、ワークシート、PC、電子黒板などを利用し、豊かな対話を位置づけた授業を行い、生徒同士、生徒と教師が話し合いながら、自分の考えを広げたり深めたりしながら学習します。
- 小単元ごとに数時間単位での「振り返り」の時間で、論理的に考える機会を設定し、また記述力の向上も含めて個人で文章にまとめていきます。

【ご家庭では】

- その日に学習したことを振り返ることで学力は定着します。また、授業プリントやテストの答案など、間違ったところを復習することで、学力は大きく向上します。
- 授業では、学習した内容を身近に関連付けるようにしているので、ニュース等を話題にしたり、共有したりすることで、学習内容と自分の生活を関連付けられるようになり、より興味、関心がわくと思います。
- 佐賀県宇宙科学館、佐賀県立博物館などの施設を利用されるのも興味・関心がわくと思います。